

# 成果主義の道路行政マネジメントの意義

道路行政の効率化 : 「成果主義」を各部門へ浸透し行政の意識改革を図ります。

道路行政の透明性の向上 : 目指すべき「成果」を事前に公表し、国民と行政の信頼関係の再構築を図ります

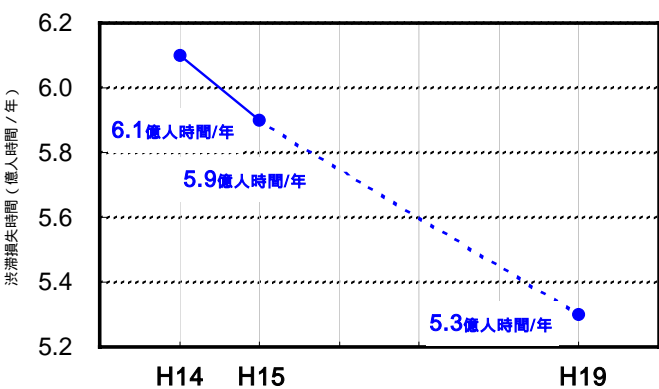
## 2. 「マネジメント・サイクル」の構築

成果主義の道路行政マネジメントの第一歩として、平成15年度から「マネジメント・サイクル」の構築をスタートします。

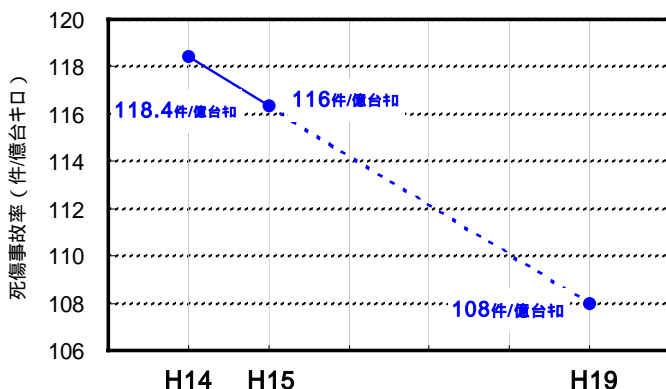
具体的には、成果指標を用いて1年後の数値目標等を示す「業績計画書」を策定・公表します。

## 3. 「平成15年度 道路行政の業績計画書」の概要

### 平成15年度予算の執行に対する成果を指標を用いて宣言

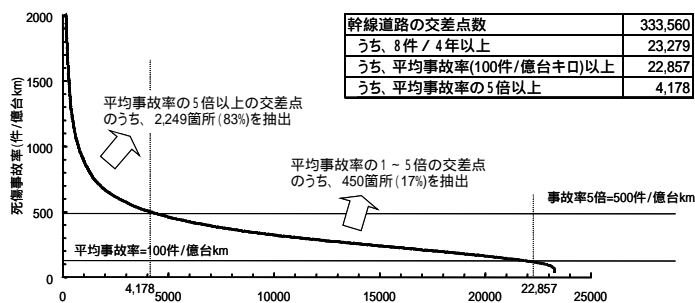
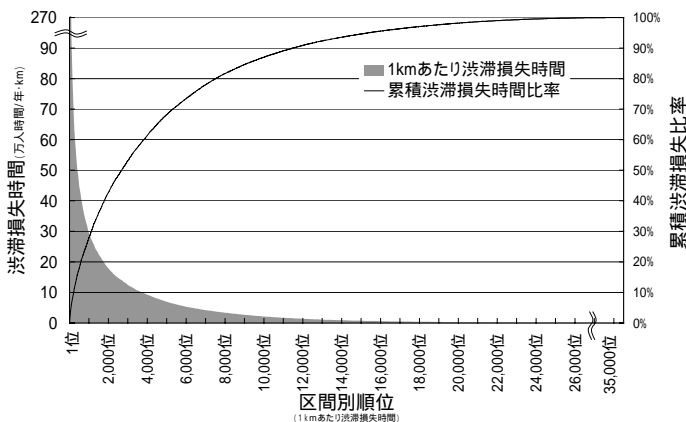


【指標-1】道路渋滞による損失時間 (渋滞モニタリング区間における渋滞損失時間)



【指標-10】道路交通における死傷事故率

### データに基づき、優先順位を数値化



\* 本グラフは、死傷事故件数が8件/4年以上の交差点の死傷事故率を高い箇所から並べたもの  
 \* 図中の%は、事故危険箇所対策を実施する2,717交差点数に対する割合  
 \* 事故率不明数:18

全国の都道府県道以上の道路における区間ごとの渋滞損失の順位

事故危険箇所(交差点)の死傷事故率

## 4. 政策テーマごとの指標及び数値目標

政策テーマ	指標	現在の値	平成15年度の目標	H19目標	
活力	道路渋滞による損失時間	約6.1億人時間/年 (渋滞モニタリング区間)	5.9億人時間/年 (2.5%削減)	約1割削減	
	ETC利用率	5%	14%	50%	
	路上工事時間	235時間/km・年	225時間/km・年 (4%削減)	約2割削減	
	規格の高い道路を使う割合	13%	13%	15%	
	拠点的な空港・港湾への道路アクセス率	59%	61%	68%	
	隣接する地域の中心の都市間が改良済みの国道で 連絡されている割合	72%	73%	77%	
	日常生活の中心となる都市まで、30分以内で安全かつ 定期的に走行できる人の割合	63%	64%	68%	
暮らし	1日当たりの平均利用者数が5,000人以上の旅客施設の 周辺等の主な道路のバリアフリー化の割合	17%	21%	約5割	
	市街地等の幹線道路の無電柱化率	7%	8%	13%	
安全	道路交通における死傷事故率	118.4件/億台キロ	116件/億台キロ	108件/億台キロ (約1割削減)	
	道路構造物保全率	橋梁	86%	87%	93%
		舗装	91%	現状の水準を維持	
	災害時に広域的な救援ルートが確保されている都市の 割合	66%	68%	76%	
環境	CO <sub>2</sub> 排出削減量	-	平成22年度までに運輸部門における二酸化炭素排出量を約250百万t-CO <sub>2</sub> まで削減		
	NO <sub>2</sub> ・SPM環境目標達成率	NO <sub>2</sub>	約6割	3%向上	約8割
		SPM	-	対象局の約1割 で道路寄与分を半減	対象局の約6割 で道路寄与分を半減
夜間騒音要請限度達成率	61%	63%	72%		
道路行政の改革 (アカウンタビリティの向上)	道路利用者満足度	2.6点	2.7点	3.0点	
	ホームページアクセス数	1,546万 アクセス/年	2,600万 アクセス/年	約1億 アクセス/年	